



じゃがいもずきん「ききぼう」くん

防災ワンポイント 第39回 大雨警報について

今年の8月、北海道では停滞する前線による長雨が続き、台風が6つも上陸・接近するという、観測史上初の事態に見舞われました。そのため北海道各地では、土砂災害、洪水、暴風による倒木など、甚大な被害を受けました。今回は、8月のあいだ連日のように発表されていた『大雨警報』についてご紹介します。

●『大雨警報』が表すもの

ひとことに大雨警報といっても、その内容として、『大雨警報（土砂災害）』と『大雨警報（浸水害）』という2つの種類があるということを知っていましたか？

これらは、かっこ書きの中にあるように、土砂災害または浸水害*という、それぞれ異なる災害の危険性が高まる際に発表されます。

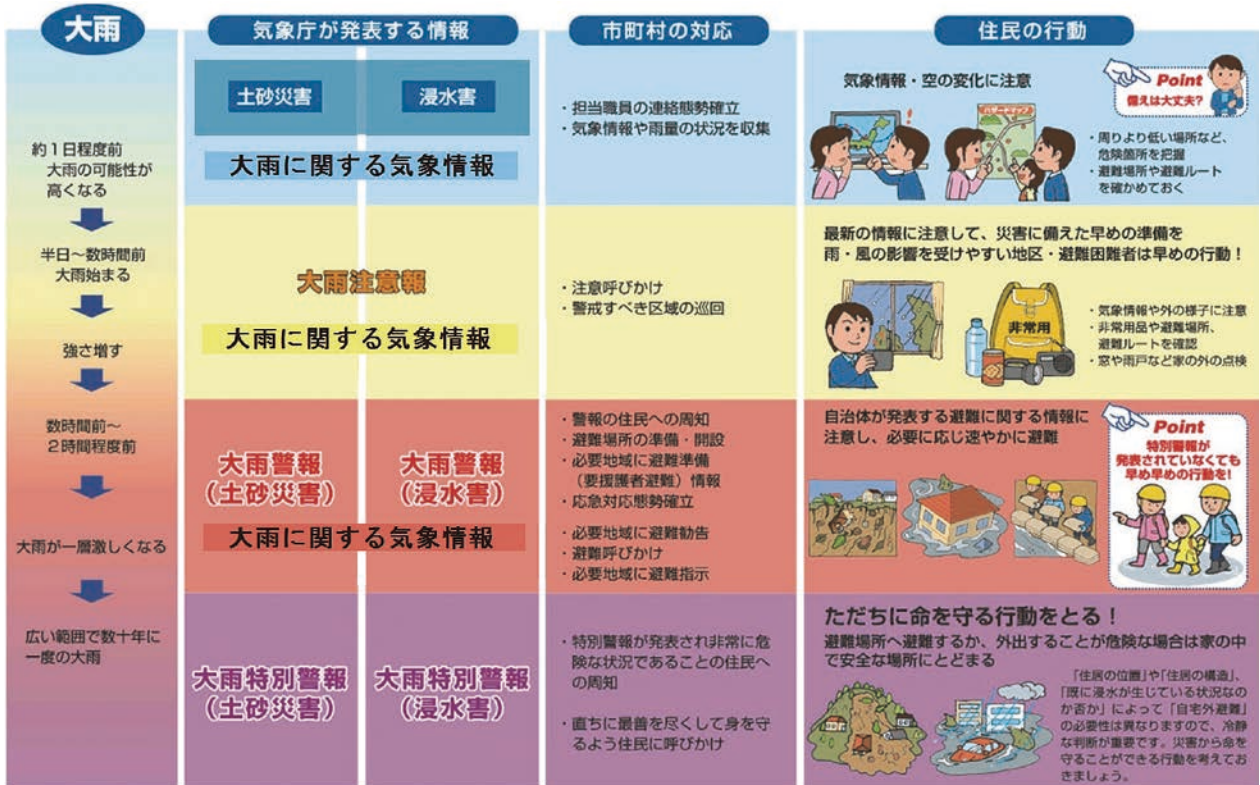
『大雨警報』というと「これから大雨が降るんだ」と考えてしまいがちですが、それは必ずしも正しくありません。場合によっては、これから降る雨よりも、今までに降った雨の影響によって、大雨警報（土砂災害）が発表されることがあるからです。今年8月の場合、長雨の影響で地盤が緩んでいたこともあり、予想される雨の量自体はあまり多くなくても、大雨警報（土砂災害）が発表される日が多くありました。もちろん、非常に強い雨が予想される場合には、大雨警報（浸水害）が発表されたり、両方の大雨警報が発表されることもあります。

大雨警報の内容が土砂災害・浸水害のどちらなのかは、テレビの速報には表示されないため注意が必要です。大雨警報の発表を知った場合は、その内容について必ず確認するようにしましょう。

*浸水害：大雨の影響で排水が追いつかず、下水溝などがあふれて、住宅や田畑が水につかる災害。冠水ともいう。

●警報発表のタイミング

下の図の左の列は、大雨が予想された場合に、どのようなタイミングで各種防災気象情報が発表されるかを表しています。大雨警報の発表は、実際の災害発生の危険が高まる数時間前に行われるため、警報が発表されたからといってすぐに慌てる必要はありません。しかし、決して安心できる状況ではありませんので、気象庁や町からの情報に十分注意し、必要に応じて速やかに避難できる準備を整えましょう。万が一の場合には、町からの避難情報発令や特別警報の発表を待たずに安全な場所へ避難するなど、ご自身の命を守る行動を取りましょう。



出展：気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/jma-magazine/1404/index.html>

詳しくは、総務課 防災係まで。